

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

## ②施設・事業所情報

名称：よるべ沼代	種別：障害者支援施設
代表者氏名：高橋 延行	定員（利用人数）：40 名
所在地：〒256-0801 神奈川県小田原市沼代865-1	
TEL：0465-43-1147	ホームページ： <a href="http://www.yorube.or.jp/">http://www.yorube.or.jp/</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：1985年04月01日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 よるべ会	
職員数	常勤職員：17 名 非常勤職員：4 名
専門職員	（専門職の名称）： 名 介護福祉士：2名
	社会福祉士：1名 看護師：1名
施設・設備 の概要	（居室数） 居室：一人部屋40室
	（設備等） 設備：作業室
	設備：調理室
	設備：食堂
	設備：ホール（作業室）
	設備：事務室
	設備：応接室（相談室）
	設備：支援員室
	設備：計画相談室
	設備：会議室
	設備：医務室兼静養室
	設備：当直室
	設備：浴室
	設備：洗面所
設備：洗濯室	
設備：便所	
設備：倉庫	
設備：養鶏場	

## ③理念・基本方針

## &lt;基本理念&gt;

障害がある人もない人も平等に、自立に向かって努力し、暮らし合う社会をめざした活動を基本とする。そして法人が行う様々な活動を通して、利用する人たちが主体的に社会参加に向かい、その関わりあいの中で成長し、人としての喜びが広く生まれ続ける環境づくりとその支援に努める。またそのためにも地域社会の福祉に積極的に貢献する。

＜基本方針＞

1. 私たちは、適切なサービスを提供するために、各部署で高い技量と能力を得る努力を行い、それを支援の場で実践します。
2. 私たちは、その実践にあたり、常に利用者一人ひとりの尊厳と権利を尊重し、利用者本位を元にしたサービス提供を基本とします。
3. 私たちは日々、親切・笑顔・挨拶をモットーに気配りの行き届いたサービス提供を行います。

④施設・事業所の特徴的な取組

＜よるべ沼代の特徴的な取組＞（基本情報 I - 3 の記載事項）

- 豊かな自然に囲まれ静かな環境にある。
- 常時見守りが必要な方に対して、見守りカメラを居室に設置し必要に応じて活用。安心・安全なサービス提供に努めている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年03月29日（契約日） ～ 2023年12月05日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	初回（年度）

⑥総評

【法人・施設の特徴的な取組】

●よるべ沼代は、社会福祉法人よるべ会（以下、法人という）を創立し認可を得た翌年に、法人で初めて設立された施設です。設立時の名称は「沼代園」でしたが、平成8年に「よるべ沼代」に変更し、現在に至っています。法人は、小田原市の東部、二宮町、大井町一帯の地域に、生活介護・入所支援・共同生活援助・障害者支援センター・計画相談支援・就労継続支援 B 型・障害児入所支援・児童発達支援等の施設を展開し、各種施設には児童から成人までが集い、児童が学ぶことから始まり、生活への訓練や職業訓練を行い、そして成人を迎え、就労から地域生活への道を創造し、展開しています。

●法人の所在地は小田原市ですが、場所的には東海道線二宮駅の北西、御殿場線上大井駅の東方にあり、標高も高く、自然に囲まれた場所に位置しています。よるべ沼代は法人本部と同じ敷地に所在し、四季折々の豊かな自然に触れられる環境にあります。

●よるべ沼代は、定員40名の入所支援施設であり、令和5年4月1日現在、成人男性24名・女性16名が入所し、生活しています。よるべ沼代では、法人が行う様々な活動を通して方針の具現化を図り、且つ地域社会の福祉に積極的に貢献するよう推進しています。地域の方と共に暮らしていく社会を実現するために、地域の方と触れ合うイベント、行事参加、広報誌発行等、様々な活動を行い、実現に向けています。

◇特長や今後期待される点

1. 【自分でやる・自分で決める生活への転換】

よるべ会の名前の由来は、昔からの言葉で「寄る辺」とも書き、意味としては自分が頼る場所や人、身を寄せる場所や人、家庭や保護者・配偶者を指しています。この「よるべ会」は、利用者の方々が身を寄せて頼れる場所の意味を示します。また、施設の玄関には、「よるべ」に因んだ書が飾られており、書には「おのれこそ おのれのよるべ おのれを惜きて 誰によるべぞ よくとのえし おのれこそ まこと得がたき よるべをぞ得ん」と書いてあります。これは、初期仏教の経典、お釈迦様の言葉を集めた「法句経」からの言葉であり、「真に頼るものは自分しかない」の意です。よるべ会が目指

す「自立の心」と類同です。よるべ会のケアは、職員に決めてもらう生活から、利用者本人が「自分でやる・自分で決める」生活の転換を図り、誇りを持った人生を目指すケアを進めています。

## 2. 【運営目標の策定】

法人の理念、基本方針に基づき、質の高いサービス提供に向け、よるべ沼代の「施設入所支援」「生活介護」「短期入所」「日中一時」各々の事業をさらに充実させ、入所利用者の高齢化・重度化への対応等の必要な支援を進めています。法人の他の事業所とも連携を深め、施設生活の質の向上に向けた環境作りを積極的・計画的に実施しています。具体的には、生活介護事業の活動の充実を図るために作業種や、活動内容の検討を進めています。また、身体機能の減退を防止するために理学療法士指導による理学療法訓練の充実や、感染症予防・まん延防止のため、感染症対策検討委員会を定期的に開催し、職員へ周知を図っています。さらに、感染症や非常災害発生時の業務継続計画（BCP）の検証・改善を行っています。必要なサービスを継続的に提供できる体制維持に向けて、入居者の確保等、収入面の強化も図り、具体的な周知目標を設定し、関係機関との連携強化を一層図っています。

## 3. 【品質方針の設定と「5S」の徹底】

よるべ会では、高い品質のサービスを目指して毎年、品質方針を掲げ、サービスの質の向上に取り組んでいます。方針として、①「私たちは適切なサービスを提供するために、各部署で高い技量と能力を得る努力を行い、それを支援の場で実践します。」②「私たちはその実践にあたり、常に利用者一人ひとりの尊厳と権利を尊重し、利用者本位を元にしたサービス提供を基本とします。」③「私たちは日々親切・笑顔・挨拶をモットーに気配りの行き届いたサービス提供を行います。」④「私たちは常に品質の改善を図り、質の高いサービス提供を実践します。」とし、品質方針の達成に向けてベースに「5S」を徹底して取り組んでいます。「5つのS」は、1. Service（貢献・奉仕）2. Speed（迅速）3. Spirit（真心）4. Specialty（専門性）5. Satisfaction（満足）であり、各「S」の具体性を示し、常に職員は心がけています。職員は、利用者の笑顔が生まれることを願いながら日々の支援に当たっています。

## 4. 【利用者本位のエクササイズと地域への貢献】

よるべ沼代では、利用者一人ひとりの活動能力により、午前中の活動グループを分けて作業を行っています。よるべ沼代は就労事業所ではありませんが、生産活動中心のグループの利用者については、生産活動に対して多少の工賃を支給し、収入を得られる体制を進めています。また、草むしりや、農業補助等の活動を行い、地域への貢献と、交流・連携を進めています。作業が難しいグループは本人の得意なことを生かした創作活動や余暇活動を行い、利用者それぞれが快適な生活を送れるよう支援を行っています。但し、障害を持つ利用者の機能の低下を考慮し、日々の活動や生活を鑑み、施設内の設備（浴室等）の改善に向けて一考を期待いたします。

### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名 よるべ沼代

《第三者評価を受審した感想、自己評価に取り組んだ感想》

自己評価を職員一人ひとりが行ったことは、良い振り返りの機会となったと思います。経験年数等により、理解度が異なる項目もあり、今後のより良い運営に向けてのヒントになりました。

訪問調査での前向きな評価の姿勢は、自分たちの仕事を肯定的に捉える視点として、とても心強く感じました。

《評価後取り組んだ事として》

1. 職員の研修の機会を増やす（学んだことを実践し、より良い支援へつなげる）  
サービス管理者補足研修、神奈川DWAT（Disaster Welfare Assistance Team/災害福祉支援チーム）ステップアップ研修、パラスポーツ体験講座

2. 非常勤職員研修実施

神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例、自己研修（オンライン研修）の方法について

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり